

第1回

Social
Business
Project

全国高校生

SBP Social
Business
Project

交流フェア

～学生の学生による学生のための祭典～

■料理部門

■SBP チャレンジ部門



2016
8.19 (金)

【会場】
三重県南伊勢町
(ふれあいセンターなど他)

20 (土)

【会場】
三重県伊勢市
(外宮前特設会場、皇學館大学)

第1回 全国高校生SBP交流フェア

主催者あいさつ

本年5月26日から27日にかけて開催されました伊勢志摩サミット（42nd G7 summit）も無事終わり、伊勢の地も本来の姿を取り戻し、現在は観光シーズンを迎え新たなにぎわいを見せています。

本フェアは、平成25年度を皮切りに“高校生レストランのまち”として有名な多気町を会場に「全国高校生“S”の交流フェア」として過去3回実施してまいりました。そして、地域の民間企業等の強力なサポートのおかげで、参加校の経費負担を抑え、行政からの資金補助ゼロで開催することができました。

また過去3回のフェアは、当初より全国での開催を前提とし、この取り組みに意味があるかどうかを問うものでもありました。

その結果、多くの学校、企業などの関係団体から高い評価をいただき、参加校のリピート率も高いことから続けていく必要があるとの結論を得ました。

今回はさらに発展的に進化させ、「第1回 全国高校生SBP交流フェア」として開催します。参加高校は全国9つの高校、進行は三重県立相可高校生産経済科、南伊勢高校SBPが担当し、皇學館大学学生がサポートします。

私たち大人は、地域を守り育てる“未来の大人である若者たち”を全員で、全力で、温かく育てていきたいと考えています。

最後になりましたが、このフェアの開催に当たりご協力、ご尽力を賜りました多くの方に感謝の意をささげるとともに、今後とも若者を応援し続けていくことを宣言し、開会に向けてのメッセージとさせていただきます。

若者応援プロジェクト実行委員会 委員長 岸川政之

若者応援 プロジェクト 実行委員会委員

委員長	岸川 政之	皇學館大学現代日本社会学部教授 （百五銀行地域創生部地域貢献室顧問）
副委員長	中野 拓治	琉球大学農学部教授（放送大学客員教授）
委員	藤田 曜久	三重県立相可高等学校学校長
委員	新田 均	皇學館大学 現代日本社会学部長
委員	長谷川 敦子	三重県教育委員会 高校教育課課長
委員	中島 光治	三重県立南伊勢高等学校南勢校舎 教諭
委員	吉田 拓未	三重県多気町まちづくり仕掛人塾 世話役
委員	井口 雄太	皇學館大学 現代日本社会学部 3年
委員	佐藤 翔輝	皇學館大学 現代日本社会学部 3年
委員	中村 隆太	皇學館大学 現代日本社会学部 3年
委員	山中 久澄	皇學館大学 現代日本社会学部 3年

SBPとは

ソーシャルビジネス・プロジェクトの略で、地域の課題をビジネスの手法を用いて解決していこうという取り組みです。具体的には、高校生が地域資源（ひと、モノ、自然、歴史、名所旧跡、産業など）と交流し、見直し、活用して“まちづくり”や“ビジネス”を提案していく、そしてその取り組みを、地域で応援し支えていこうというものです。

SBPは、三重県多気町にある相可高等学校食物調理科が運営する高校生レストラン「まごの店」などを先進事例に、2013年4月に三重県立南伊勢高等学校南勢校舎で最初のSBPが立ち上がりました。今、この地域に根ざした取り組みが全国に広がっています。

これまでの 全国高校生SBP交流フェアの様子



第Ⅰ回 全国高校生SBP交流フェア

～学生の学生による学生のための祭典～

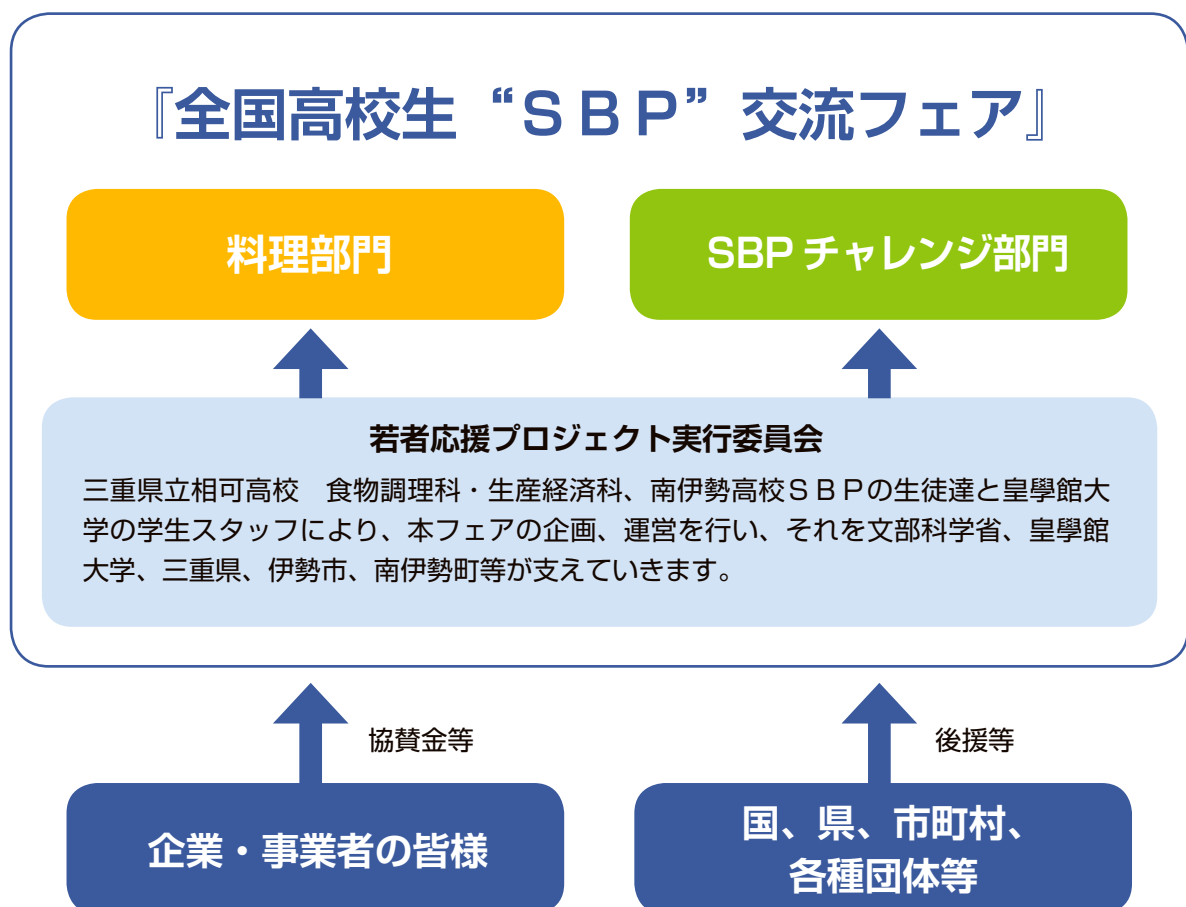
■料理部門

■SBP チャレンジ部門

2016.8.19（金）・20（土）

全国の地域資源を活用した取り組みを行っている高校生が集まり、「食」「生」「職」をローマ字にした時の頭文字の“S”をキーワード^(※)に“取り組みの発表”や“開発した商品の紹介・販売”などを行い、互いを評価しながら進化していくことを目的に行う交流事業です。このフェアは、以下の2つの部門で構成しています。

※他にも“S”には、英語で「Social」「School」「Student」「Smile」「Sun」「Super」「Soul」「Sustainable」「Skincare」「Seed」「Sweets」「Special」「Surprise」など、未来に続く素晴らしい言葉があります。



料理部門

『地域の特産物』をテーマに、料理に取り組む日本全国の高校生が、皇學館大学（三重県伊勢市）に集い、高校生レストラン「まごの店」で活躍する相可高校食物調理科と料理交流を行います。

参加各校が交流を深め、ホスピタリティーあふれる人として成長する機会になることも大きな目的の一つです。



SBP チャレンジ 部門

色々な取り組みを進める高校生同士が集まり、交流を深めて視野を広げます。地域における貢献度など、互いを評価して進化していくことを目的にしていますが、順位を重視するものではなく、商品や取り組みの完成度等を評価します。

午前 伊勢神宮外宮前の観光客等でにぎわう特設会場（テントブース）にて、参加高校を中心とした展示、販売イベントを行います。

午後 皇學館大学に移動し、各取り組みの審査発表会「SBP チャレンジアワード」に参加します。

【審査対象】

全国の高校生が夢を持ち、熱い思いで取り組むすべてのプロジェクト。
（ただし、応募の時点で継続中または事業終了後 1 年以内のもの）

＜例＞ ①高校生の特色ある取り組み ④高校生が夢を持ち、その実現に向けた取り組み
②地域活性化に寄与する取り組み ⑤学校間や地域間を越えた取り組み
③地域や企業などと連携した取り組み などなど

【審査基準】

○事業性（計画性、持続性、協働性）…………… 30 点
○市場性（ニーズ、社会貢献）…………… 30 点
○独自性（先駆性、モデル性、地域性）……… 30 点
○PR力…………… 10 点

【各賞の種類】

『匠』 最優秀高校
『極』 90点以上
『輝』 75点以上、90点未満
『雅』 60点以上、75点未満

【審査方法】

参加校は公開プレゼンテーションを行います。

（1校あたり持ち時間 10 分で、発表後、審査員による質問時間を設けます）。

審査基準表に基づき、審査シートを用いて、各商品や取り組みを点数化し、各賞を決定していただきます。

【審査委員】

	氏 名	所 属 等
委員長	荒木 康行	株式会社百五総合研究所 代表取締役社長
副委員長	村田 莉聖	三重県立相可高校 3 年 農業クラブ会長、NPO 法人植える美 ing 副理事長
委 員	小谷 和浩	文部科学省 生涯学習政策局 参事官（連携推進・地域政策担当）
委 員	田畑 由美	「いずみ楽農会」会長
委 員	中川 静香	株式会社フーズクリエーション 商品企画室
委 員	中村 安貴	株式会社 川原製茶（相可高校生産経済科OB）
委 員	上野 祥太郎	皇學館大学 現代日本社会学部 3 年

交流フェアスケジュール

1 日目（共通日程） 平成 28 年 8 月 19 日（金）

《料理部門》 《SBP チャレンジ部門》

■演劇鑑賞&交流会 会場：ふれあいセンターなんとう等（南伊勢町）

参加者全員で、青森県立中央高校演劇部公演「もしイタ」を鑑賞後、交流イベントを行います。

13：00～ 受付 皇學館大学（伊勢市）集合

13：30～ 日程説明

※翌日に使用する商品等を皇學館大学に預けます。
※要冷凍・冷蔵も可能ですが、事前に申請をお願いします。

14：00～ 会場の南伊勢町にバスにて移動（約1時間）

15：20～ 会場「ふれあいセンターなんとう」に到着

16：00～ 青森県中央高校演劇部公演「もしイタ」鑑賞（17：00 過ぎに終了予定）

17：30～ 交流会会場に移動 ※会場：南伊勢町賛浦漁港

18：30～ 大バーベキュー大会&交流会（2時間程度）

20：30 終了予定（21：00 頃 宿泊場所到着） ※宿泊場所：南伊勢町ふれあいと体験の館「海ぼうず」

2 日目 平成 28 年 8 月 20 日（土）

《料理部門》

■相可高校食物調理科との調理交流 会場：皇學館大学（伊勢市）

大学生レストラン（皇學館大学内）にて、相可高校食物調理科調理クラブとの料理実習交流を行います。

7：00～ 朝食

7：45～ 大学生レストラン（皇學館大学）に向けて出発

9：00～ 調理交流開始（メニュー：参加者全員の昼食）

※相可高校食物調理科教諭の村林先生による料理アドバイスをいただきながら、
参加各校生徒と相可高校食物調理科生徒が料理を通して交流を図ります。

13：00～ 試食会（昼食：参加者が全員集合します）

14：00～ 片付け後、SBP チャレンジ部門に参加

18：00～ 夕食&交流会（2時間程度）

20：30 終了予定

21：00 片付け後、宿泊場所にバスにて移動（10分程度）

※本フェアのすべての日程終了。

《SBP チャレンジ部門》

■外宮前での展示、販売イベント&チャレンジアワード 会場：外宮前特設会場、皇學館大学（伊勢市）
全国の高校生との取り組み、開発した商品などの発表・販売を行い、高校生間の交流を深めるとともに、その商品や取り組みの完成度の審査・評価を受けます。

午前：伊勢神宮外宮前の観光客等にてぎわう特設会場（テントブース）にて、参加高校を中心とした展示、販売イベントを行います。

午後：皇學館大学に移動し、各取り組みの審査発表会「SBP チャレンジアワード」に参加します。なお、伊勢市内の中高生が合流し、SBP チャレンジアワードの審査などにも参加します。

※相可高校生産経済科、南伊勢高校SBPの協力、参加予定：5団体（7校）

- 7:00～ 朝食
- 7:45～ 皇學館大学に向けて出発
- 9:00～ 伊勢神宮外宮前の広場にて、各校のPRや展示即売交流を実施
- 12:30～ 大学生レストラン（皇學館大学）にバスにて移動
- 13:00～ 試食会（昼食：参加者全員集合）
- 14:00～ SBP チャレンジアワード開始（17:00 終了予定）
※伊勢市内の中高生が合流（SBP チャレンジアワードの会場審査員として参加）します。
- 16:15～ 親子3世代海女として活躍する中川静香さんの講演（18:00 終了予定）
※講演終了後、できればSBP チャレンジアワードの発表を見てから市内の中高生は解散します。
- 17:00～ 表彰式
- 18:30～ 夕食&交流会（2時間程度）
- 20:30 終了予定
- 21:00 片付け終了後、宿泊場所にバスにて移動（10分程度）※宿泊場所：修養団 伊勢青少年研修センター
※本フェアのすべての日程終了。

3日目（移動日） 平成28年8月21日（日）

■フリー、順次ホテルを出発して自由行動

宿泊場所は伊勢神宮内宮ないくうに近く、内宮のほかにも「おかげ横丁」などの観光名所にも歩いて数分で行けます。

2012年高校演劇全国大会最優秀賞受賞！

「演劇界の事件」とまで称された伝説の高校演劇

もしイタ

～もし高校野球の女子マネージャーが青森の「イタコ」を呼んだら～

作・演出 畑澤聖吾 青森県立青森中央演劇部×三重の選抜高校生

やる気もなく部員も8人しかいない弱小野球部の女子マネージャーが、東日本大震災を機に青森に転校してきたレオ君を勧誘して甲子園出場に燃える。しかし、野球部のコーチになってくれたのは青森のイタコだった。コーチはイタコの能力でレオ君に伝説の投手・沢村栄治の魂を乗り移らせる。そんなこんなで、弱小野球部員たちの奮闘、成長を描いた笑いあり涙ありの青春活劇です。



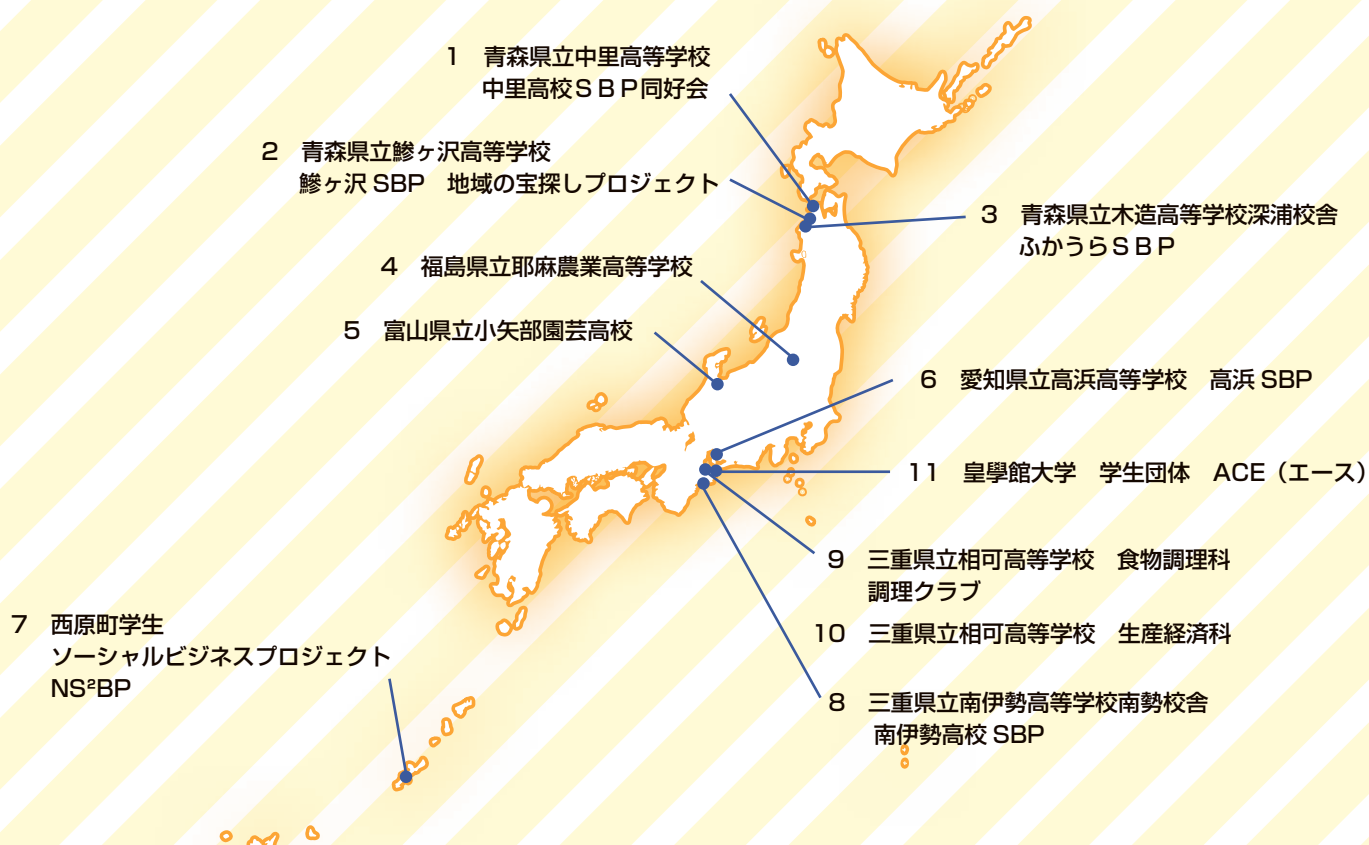
協力 三重県文化会館

第1回 全国高校生SBP交流フェア

～学生の学生による学生のための祭典～

参加校一覧

	ブロック	高等学校名	参加するイベント
1	東北	青森県立中里高等学校 中里高校SBP同好会	SBP チャレンジ部門
2	東北	青森県立鰺ヶ沢高等学校 鰺ヶ沢 SBP 地域の宝探しプロジェクト	
3	東北	青森県立木造高等学校深浦校舎 ふかうらSBP	
4	東北	福島県立耶麻農業高等学校	SBP チャレンジ部門
5	北陸	富山県立小矢部園芸高校	ブース販売
6	中部	愛知県立高浜高等学校 高浜 SBP	ブース販売
7	九州・沖縄	西原町学生ソーシャルビジネスプロジェクト NS ² BP	料理部門 SBP チャレンジ部門
8	近畿	三重県立南伊勢高等学校南勢校舎 南伊勢高校 SBP	SBP チャレンジ部門
9	近畿	三重県立相可高等学校 食物調理科 調理クラブ	料理部門
10	近畿	三重県立相可高等学校 生産経済科	SBP チャレンジ部門
11	近畿	皇學館大学 学生団体 ACE (エース)	ブース販売





今年度癸足したばかりですが皆で協力して頑張ります！

本校は津軽北部地域の拠点校として、昭和51年に開校以来、校訓である「創意」「調和」「貢献」を常に意識しながら「夢と志」実現のために、地域社会に貢献できる人材の育成に努めています。また、津軽半島中央にある本校はアットホームな雰囲気の中で全校生徒に目が届く小規模校の利点を生かし、多種多様な生徒の進路実現を図っています。また、地域との連携も強固であり、祭りへの参加やボランティア要請に応え、地域と積極的に関わるにより自分を磨き、地域から信頼される高校を目指し努力しています。

中里高校S B P同好会は、5月12日に結成され、1年生9名、2年生3名の計12名でスタートしました。5月13日には深浦町の木造高校深浦校舎において、木造高校深浦校舎と鰯ヶ沢高校と中里高校の3校が集まり「セレクトギフトワークショップ in 青森津軽」が開催されました。今年は3校合同のセレクトギフトと中里高校独自のセレクトギフトを

作成する予定です。5月25日には商品を購入しました。町の特産物などを見た目やおいしそうなもの、町をPRできそうなものを中心に選びました。6月8日にはお菓子類などすぐに食べられる商品を中心に第1回試食会を行い各自で点数をつけました。食べたことのないものが意外と多く驚きました。6月10日には一手間加える必要のあるものを中心に調理室で第2回試食会を行いました。計2回の試食会で40品以上試食しました。6月16日は鰯ヶ沢高校で3校合同セレクトギフトの箱のデザインを話し合いました。自分たちでは思いつかないような意見が次々出てきたので大変勉強になりました。また、前回よりも3校の仲が深まりました。6月29日には試食した商品の結果で中里高校独自のセレクトギフトと3校合同セレクトギフトの選定をしました。今後は夏休みを利用して箱のデザインを決定し、2種類のセレクトギフトを完成させたいと思います。



青森県立鰺ヶ沢高等学校

鰺ヶ沢 SBP 地域の宝探しプロジェクト



まずは、チャレンジ！

わたしたちの鰺ヶ沢高校は、青森県の日本海側に位置する全校生徒 134 名、各学年 2 クラスという小規模な学校です。そして鰺ヶ沢高校 SBP 研究会は、今年の 4 月に発足しました。そもそものきっかけは、平成 26 年に隣の深浦町で行われた岸川政之先生の講演会に参加したことです。当時は 1 年生のみが参加したのですが、高校生でも地域活性化の力になれることを知り、興味を持つようになりました。その後、平成 27 年に三重県で行われた「未来の大人」講座（7 月 29 日～8 月 2 日）に参加した先輩の話を聞き、私もさまざまな実践を行っている高校生みなさんと話をしてみたい、ぜひ鰺ヶ沢町でも SBP 活動をしてみたいと強く思うようになりました。

現在は 18 名の部員で、毎週木曜日に活動をしています。具体的には、木造高校深浦校舎・中里高校と連携し、それぞれの町内を歩き回り、自分たちでいろんな商店などを取材

し、それまで気付かなかった地域の価値を掘り起こし、商品化するという「地域の宝探しプロジェクト」を行っています。3 校が集まって行うミーティングでは、さまざまな意見が出され、話すこと・聞くことの大切さを学ぶことができました。これからもお互いの地域が発展していけるよう、3 校で協力していきたいと思っています。

また、わたしたちは 12 月までに鰺ヶ沢高校 SBP 研究会オリジナルのセレクトギフトをつくることにもチャレンジしたいと思っています。そのためにも今回の交流会でいろいろなことを学び、学校も町も元気にしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(SBP 研究会リーダー 3 年 工藤泉紀)



青森県立木造高等学校深浦校舎

ふかうらSBP



おもてなしの気持ちを大切に深浦町の魅力を発信しています！

青森県立木造高等学校深浦校舎は、青森県西津軽郡深浦町にあります。深浦町は、青森県の西南部に位置し、日本海に面し秋田県に接する県境の町です。地形は、南北約 78 km にわたる海岸線を有する海岸から山岳地帯まで変化に富み、世界自然遺産白神山地や、津軽十二湖国定公園など自然景観豊かな地域であり、江戸時代中期には、北前船の風待ち湊として栄え、大阪や京都などからの文化導入の表玄関として発展してきた町です。

その深浦町中心部から約 2 km の高台に本校舎があり、学校敷地内には、猿やリスも遊びに来る空間も持っています。このような、自然・歴史・文化に囲まれた環境で、深浦校舎の生徒たちは、全校生徒数 69 名と少ないながらも、8 つの部活動のほか、町内で開催されるイベントである『津軽深浦チャンチャンまつり』や J R 東日本主催の『駅からハイキング』の街歩きガイド、町内の海岸・河川的环境保全、十二

湖の遊歩道整備などをおとして、観光地として訪れる観光客をおもてなしできる活動に積極的に参加をし、深浦町の魅力を発信しています。

平成 28 年度より『ふかうら SBP』に取組み、生徒たちによって、地域の活気を蘇らせる活動が開始されたことで、故郷に対する思いを、何か形にできるものはないかと日々メンバーが一丸となって取組み始めました。取組内容として、津軽の『いいもの』『んめもの』を取り揃えた『セレクトギフト』を商品として町民はじめ町外の方々に販売し、地域の魅力を発信することになっています。今回は、西津軽・北津軽地域の高等学校 3 校で考えた各地域の特性・個性がギュッと詰まった特産品の『セレクトギフト』を商品化し、全国から集まった高校生たちに SBP 初の連携を披露したいと思っています。





福島県立耶麻農業高等学校



喜多方市山都町の高校生として山都町とともに頑張っています！

本校の産業技術科では、「飯豊山とそばの里」をキャッチフレーズとする山都町の高校らしく、4haの畑でソバを栽培するだけでなく、そば打ちの施設設備も整っており、そば打ちの段位取得などにも積極的にチャレンジしています。今年は、地域の方々のご協力をいただき、『高校生手打ちそばチャレンジ店』による「そばの里」進展事業」を立ち上げ、5月に岸川政之様にご講演をいただきました。今後は、8月に東京で開催される「全国高校生そば打ち選手権大会」に出場し、9月には地元で開催される「山都かあちゃんたちの雪室そば祭り」、そして、10月に「山都新そば祭り」への出店を目指しています。また、11月には東京日本橋ふくしま館「MIDETTE」において、手打ちそば実演と販売を2日間行い、「きたかた山都そばの里」と、安全・安心で元気な「ふくしま」の食をPRする計画です。

「高校生手打ちそばチャレンジ店」が地域活性化の原動力となれるよう頑張ります。

ライフコーディネイト科では、学校家庭クラブ活動として、地域の産物である「アスパラガス」の活用を考え、地域に広めるための継続研究をしています。調理法が同じになりがちなアスパラガスのオリジナルメニューの考案、そして、廃棄量が多いアスパラガスの有効利用として、廃棄部をうまく活用した「アスパラペースト」を作ることでさらにさまざまな料理への活用につながっています。昨年度は、アスパラペーストを練りこんだアスパラ餡を考え、地元の企業と「アスパラパン」を共同開発し、期間限定販売することができました。今年度は、さらに、地元の企業のご協力をいただき「アスパラ洋風どら焼き」を考案しています。ネーミング、パッケージに至るまで私たちの意見が反映されたものになります。販売が待ち遠しいです。

耶麻高生として、地域の方々のご協力をいただきながら、地域と学校が連携した取り組みを今後も積極的に取り組んでいきたいと思っています。



西原町学生ソーシャルビジネスプロジェクト NS²BP



「Positive!」をテーマに西原町の活性化に向けて積極的にチャレンジしています！

私たち NS²BP は沖縄県西原町に在住する高校生が主体となって活動しているソーシャルビジネスプロジェクトです。

NS²BP とは Nishihara Students Social Business Project の略で、高校生が琉球大学等の教育機関や地元の企業様、西原町役場の連携協力のもと、地域の「宝物」を探し出し西原町の良さを全国の皆さまにお伝えするために頑張っています。高校生メンバーが県内 11 校から集まっていること、1 年生から 3 年生まで違う年のメンバーと話し合えることから、意見の幅が広がり、高校生間での情報共有がスムーズなどのメリットがあります。

私たちは、2014 年 11 月の結成後、全国各地で同世代の学生と交流し、マーケティングや接客について学んで、物品の販売を行っています。また、SNS などを活用してメンバー同士で活動の内容を話し合ったり、日程の調整を行ったりしています。昨年は地元で開催された「西原まつり」に出店し町内の特産品をギフトにして販売しました。今年 3 月の首都圏研修で、

NPO 法人コジカラニッポンさんから接客や広告について学び、巣鴨・元住吉・有楽町にて販売をさせていただきました。昨年度は三重県、北海道でも県外研修を行い、地元の特産品をより深く知り、活動を重ねるごとに私たち自身の意識を高めることができました。

今年度、NS²BP 全体であらゆる活動においても前向きに、積極的にチャレンジしようという思いをこめ、「Positive! (ポジティブ!)」のテーマを設定しました。さらに、沖縄国際映画祭での出店をはじめ、4 月からはイオン琉球の「黄色いレシートキャンペーン」に参加しています。このような大きなイベントはもちろんですが、まつりに参加したり、商品を販売する上で地元企業さんと交流したりなど、地域に密着した活動に努めています。現在はパンや石けんの商品開発やビーチの清掃活動など、西原町の活性化に向けての広報活動や販売活動にもより積極的に取り組んでいます。



三重県立南伊勢高等学校南勢校舎 南伊勢高校 SBP



地域と協力しながらまちづくりに取り組んでいます！

三重県の南部、伊勢志摩国立公園にも指定された、さまざまな形の島や半島が美しい海岸線が続く風光明媚なまち、南伊勢町に私たちの南勢校舎があります。南勢校舎は1学年1クラスのとて小々な高校です。ですが、その小なさを強みに、地域と連携しながらさまざまな活動をしています。その一つが私たちのソーシャル・ビジネス・プロジェクト、通称 SBP です。

海の幸、山の恵、自然の良さを全身で感じられる魅力がこの町にはあります。しかし、南伊勢町の人口減少は全国から見ても著しく進んでいます。南勢校舎では、岸川政之さんの講演をきっかけにまちづくりへの気持ちが高まり、平成 24 年度に全国で最初の SBP が発足しました。SBP は自分たちのまちの魅力を知り、地元愛を育て、地域資源を生かしたビジネスを立ちあげ、自ら働く場を確保することで地域に残れる仕組みをつくっていくものです。

私たちは大きく2つの活動をしています。1つ目は、私たち

高校生が選ぶ南伊勢町のおすすめ品「セレクトギフト」を企画しています。町の特産品を1つの箱に詰め合わせたもので、さまざまな工夫と趣向を凝らした商品です。これまでに第1弾～第3弾のギフトを販売し、すべて完売し、町内外から好評の声をいただいています。

2つ目は、南伊勢町のゆるキャラ「たいみー」の形をしたたい焼き「たいみー焼き」です。自分たちのオリジナル商品を作りたいという思いからはじまったこのプロジェクトは、沖縄県美里工業高校の協力を経て、今ではたくさんの人たちに愛される商品となりました。たいみー焼きは世界に向けて日本の文化を発信する商品になる可能性を秘めています。

他にも地元の小学校で特別授業を行いました。

私たちが本気になって、ビジネスの手法でまちづくりに挑戦していくことで、地元愛を形にし、地域の大人たちを巻き込み、協力を得ながら地域の活性化を実現していきます。



三重県立相可高等学校 食物調理科 調理クラブ



めざすは「食のプロフェッショナル」！

最近では遠方から通う生徒も多く、特に冬場はまだ暗いうちから家を出て、2時間以上かけて通う生徒もいます。彼らが目指す夢は、ずばり、「食のプロフェッショナル」。日本一の板前になりたい、自分の店を持ちたい。入学時の熱い思いを糧に、彼らは3年間、この学科で頑張ります。そして、「もっと料理がしたい」生徒たちが集まったのが「調理クラブ」です。

調理クラブでは、2002年に本校と地元多気町が協力してオープンした研修施設「まごの店」を、土・日・祝日のみ営業し、仕入れから調理、接客、経理までを高校生だけで運営しています。毎営業日には、遠く関東や九州から訪れる人々もあり、大繁盛しています。お客様の「ありがとう、おいしかったよ」の一言が、さらに彼らを成長させてくれます。

地域の食材を使った商品開発やレシピの提案も大切な勉強です。多気町特産の伊勢いもを使った「とろろ麺」、自然の味付けでおいしく料理するために開発した「相可高校オリジナル醬

油」など、商品化されたものも数多くあります。新聞や情報誌などで彼らのオリジナルレシピが紹介され、レシピ本も出版されています。

最近では、地域との交流を大切にしながら、グローバルな場での活動も増え、日本食の普及と国際交流にもつとめています。台湾の開平餐飲學校とは2011年に姉妹校協定を結びました。「高校生国際料理コンクール」では、日本料理の技術を発揮し金メダルを受賞しています。昨年は「ミラノ世界万博」、アメリカで開催された「食の国際会議」、伊勢志摩世界サミット歓迎レセプション」など、三重県の代表として「三重の食」を世界に発信しました。今年開催された「伊勢志摩サミット」では、配偶者プログラムで生徒たちが料理とおもてなしを担当しました。

高校生の若い力を、全国、世界に向けて発信する大きなチャンスがいっぱい。まだまだ相可高校調理クラブの挑戦は続きます。



三重県立相可高等学校 生産経済科



バイオマス産業のまちづくりへの第1歩

現在、相可高校がある三重県多気町ではバイオマス関係の企業誘致に取り組んでいます。これら施設を拠点としバイオマス産業のまちを構想し実現を目指しています。そこで、バイオマス産業集積によるまちづくりを語る会が多くの企業や団体と結成され、相可高校生産経済科も参加することになりました。

私たちの主な役割は消化液の液肥利用事業の調査で、空芯菜を中心に調査しました。調査方法として、原液とろ過液の消化液を空芯菜に散布し生育、細菌、味覚調査等を行いました。

調査の結果、消化液散布区の生育は慣行区に比べ生育旺盛なのが見た目でも判断できる状況となりました。また、発根状況を見ても調査区の根張りは慣行区に比べ良好で最終的には30%増の収穫量となりました。

また、味覚調査を行うにあたり食品細菌検査の必要があると判断し、大腸菌群やO-157等を検査し、バイオマス消化液の安全性を証明することもできました。そして、味覚、食感も評価が高

い結果となりました。

また、バイオマス栽培の空芯菜のPR活動に取り組みました。イメージの悪い消化液という名前を「バイオパワー液 3R リキッド」に決め、販売用の袋へ名前のシール、説明のチラシ等を作り出荷、販売を行いPRにも力を入れました。

今回の調査・研究で消化液が肥料として有効に利用できることがわかりました。これはバイオマス発電による循環型農業への成功に一歩近づいた結果です。今後は継続調査、調査対象の拡大などを行いバイオマス産業のまちづくりに貢献したいと思います。

私たちの調査・研究はまだ一歩前進しただけですが、新しい農業への第一歩だと考えます。現在、日本の穀物輸入量は2,800万tあります。反面、食わずに1,700万tの食品が捨てられています。日本には「もったいない」という美しい言葉があります。地域資源をできる限り見直す。そのような活動を継続・展開したいと思います。



次に向かう
チカラになりたい。

お気軽にご相談ください。
《資産運用・住宅ローン・ビジネスローン》



百五銀行

FRONTIER BANKING

インターネットホームページ <http://www.hyakugo.co.jp/>

FRONTIER BANKING

調査 業務

●調査研究・地域活性化支援

地方公共団体等が抱える課題に対して、
ご支援・コンサルティングを行います。

●地域経済・産業動向調査

地域経済、産業動向、経済波及効果など
を調査しています。

コンサル ティング 業務

●経営改善支援

●賃金・人事・雇用管理

●教育・研修・講師派遣

●マネジメントシステム導入支援

●BCPコンサルティング

●PFI・PPP手法の導入・事業実施支援

幅広い分野で、お客さまのニーズにお応えします。

会員 制度

●百五経営情報クラブ

(特別会員、一般会員)

特別会員交流会、商談会・ビジネスマッチング、
ビジネスセミナー、経済講演会、勉強会開催
教育ビデオ・DVDの無料貸出、定期刊行物など

●情報セキュリティコンサルティング

(情報セキュリティ会員)

主な定期 刊行物



三重県経済のあらし 三重県会社要覧 賃金統計ガイド

HRI 株式会社
百五総合研究所

TEL.059(228)9105 FAX.059(228)9380

URL <http://www.hri105.co.jp/> E-mail info@hri105.co.jp

皇學館 DAY 2016

皇學館高等学校吹奏楽部
第9回定期演奏会

津
開催

9.19 平成28年
[月・祝]

開催時間 / 14:00 ~ 19:00

場 所 三重県文化会館 大ホール

■JR・近鉄[津]駅より◇徒歩:24分 ◇バス:[総合文化センター行き・夢が丘団地行き(系統番号89)]乗車、バス停[総合文化センター前・総合文化センター]下車すぐ。
■車:伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分。

内 容

14:00~ 学校相談会(無料)

16:00 (中学校・高等学校・大学)

15:30 [開場] 皇學館高等学校吹奏楽部

16:00~ [開演] 第9回定期演奏会

19:00 (終了予定) [入場料:500円] ●皇學館高等学校事務局
●三重県文化会館チケットカウンター

チケット問い合わせ 0596-22-0205(皇學館高等学校事務局)

生徒や保護者の方、学校、塾の先生方のご来場をお待ちしております。

問い合わせ **0596-22-8600**

学校法人 皇學館

大学生の企画が実現する！

大学生レストラン

9月20日OPEN

食堂の2階が新しくなります！

場 所：倉陵会館 2 階食堂

営業時間：11:00～14:00

営 業 日：通常講義期間中の月～土曜日（大学の休業日を除く）

※土曜日は 1 階食堂と 2 階食堂どちらか営業

メニュー：日替わりランチ 450 円

ヘルシ菜ランチ 540 円

ポウルランチ 400 円

私が監修したメニューです！



三重県立相可高等学校
食物調理科教諭
村林 新吾 先生

相可フードネット×株式会社魚国総本社

これまでのSBP協賛企業様一覧（五十音順です。）

株式会社赤福、株式会社アクアイグニス、株式会社アイブレーン、イオンリテール株式会社東海長野カンパニー、伊藤忠製糖株式会社、特定非営利活動法人植える美 ing（ウエルビーイング）、株式会社魚国総本社三重支社、株式会社うおすけ、エイチ・エス・アシスト株式会社、株式会社エオネックス、相可高校 生産経済科、株式会社相可フードネット（せんばいの店）、株式会社近江兄弟社、株式会社岡井ファーム、社会福祉法人 笠木御所桜会、河武醸造株式会社、株式会社川原製茶、株式会社ぎゅーとら、ギョルメ舎フーズ株式会社、九重味淋株式会社、クラギ株式会社、グリコハム株式会社、コケッコー共和国、松和自動車学校、株式会社松和産業、有限会社すかや呉服店、瀬古食品有限会社、株式会社ダイム、多気郡農業協同組合、多気町観光協会、多気町商工会、株式会社トモ、日経三勢会、万協製薬株式会社、番頭舎、株式会社百五銀行、株式会社百五総合研究所、株式会社マスヤ、株式会社マスヤグループ本社、松阪山桜ロータリークラブ、有限会社丸伸西口商店、三重信用金庫相可支店、株式会社ミエライズ、有限会社山春商店、ユナイト三重株式会社

企画メンバー紹介

相可高等学校生産経済科

大野 成美、村田 莉聖、北 ひなの、山下 華弥、谷口 夏鈴、林 利子、藤村 綾香、藤村 静香、山田 奈々子、今西 萌々香、中川 明寿香、濱坂 光、松長 一透、堀江 満理奈

南伊勢高校SBP

濱口 太希、井村 有貴、大竹 綾、加藤 総心、高山 裕斗、竹内 華、濱口 勇飛、濱口 友希、西村 朱里

皇學館大学現代日本社会学部

青木 辰成、井口 雄太、井上 智史、上野 祥太郎、大山 健、片倉 瑠星、北川 雄亮、小久保 拓哉、古布 廉、佐藤 翔輝、柴田 晃平、柴原 駿太、鈴木 涉真、鈴木 友哉、高橋 佑征、谷 和樹、中村 浩介、中村 隆太、中村 僚介、中森 一輝、野田 基揮、福井 章大、藤原 大樹、三宅 陸也、山中 久澄



ご後援者様

文部科学省、皇學館大学、三重大学（社会連携研究センター）、
三重県、三重県教育委員会、伊勢市、南伊勢町、伊勢市商工会議所

主 催 若者応援プロジェクト実行委員会